

11月23日朝早く、AFPのニュースを見たら、次のような報道記事と写真が出ていました。

【11月22日 AFP】イタリアのローマやミラノで21日、多くのイスラム教徒たちが、フランス・パリの同時テロの犠牲者らとの連帯を示すため平和集会やデモを行った。パリの犠牲者を悼み1分間の黙とうで始まった集会で参加者たちは、宗教の名の下に繰り返される暴力を非難し「私たちは敵ではない」などと声を上げた。

デモの参加者は、イタリア語で書かれたプラカードを掲げていました。イタリア語を知らないので、勘で訳しましたが、いずれにしても、モスリムの人々の自由な声を本当に聞きたいと思います。「イスラム国」のテロも恐ろしい暴力ですが、国連難民高等弁務官事務所や、シリアの反政府軍の伝えるDVDを見ると、アサド政権も有志連合の空爆も「集団殺戮」だと糾弾しています。



“イスラムは平和です”



“イスラムは ISIS に反対します”



“テロリズムには宗教はない”

イスラム教は、「唯一絶対の神を信仰し、神が最後の預言者たるムハンマドを通じて人々に下したとされるコーランの教えを信じ、従う一神教である。ユダヤ教やキリスト教の影響を受けた唯一神教で、偶像崇拜を徹底的に排除し、神への奉仕を重んじ、信徒同士の相互扶助関係や一体感を重んじる点に大きな特色がある」と説明されています。このプラカードの鳩とオリーブの葉は旧約聖書のノアの物語の救いの印として、私たちにもなじみ深いものです。モスリムも同じ信仰の伝統を持っているのです。

以前ロンドンのホームステイで、トルコの学生と一緒にになりました。彼女はお祈り用の綺麗なカーペットを持参していました。咳が出た私のためにハーブの咳止めを煎じてくれた優しい女性でした。モスリムはキリスト教徒に次ぐ人口数と言われています。日本にもトルコや、東南アジアから5万人位が住んでいるそうです。ヨーロッパでも日本でも少数者ですから、「イスラム国」を名乗るテロリストと同一視され、ヘイトスピーチ、差別、嫌がらせに苦しんでいるでしょう。デモをするのも勇気がいることでしょう。

小さい子どもは私たちの未来です。彼らが安全で平和に生きて行かなければ、私たちの未来はありません。私も息子をバギーに乗せて、「靖国神社国家護持法案反対」のデモに一緒に出かけたものでした。信仰の自由を子どもにも味わってほしいと願って。この子どもたちも平和のために親が働いていることを知るでしょう。そして、互いの「宗教」の自由を認めあい、人の命が大切にされる世界のために、生きていってほしいです。デモをするモスリムの人に出会ったら、一緒に歩きたいです。